

# 令和7年度 東久留米市 指定管理者モニタリングシート（令和6年度実績）

| 1 対象施設の概要 |                            |  |      |          |                        |
|-----------|----------------------------|--|------|----------|------------------------|
| 施設名称      | 東久留米市立生涯学習センター（愛称：まろにえホール） |  | 所管部署 | 教育部生涯学習課 |                        |
| 所在地       | 東京都東久留米市中央町二丁目6番23号        |  | 開設年度 | 昭和60年度   | 指定管理者制度の導入年度<br>平成22年度 |
| 施設の設置目的   | 市民の生涯学習の促進及び振興を図る          |  |      |          |                        |

| 2 指定管理者の概要   |                                                                                         |  |        |                    |               |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--|--------|--------------------|---------------|
| 指定管理者名       | J N共同事業体（株式会社J T Bコミュニケーションデザイン、野村不動産パートナーズ株式会社）                                        |  | 指定期間   | 令和2年4月1日～令和7年3月31日 |               |
| 指定管理者所在地     | 東京都港区芝3-23-1                                                                            |  | 初回指定年度 | 平成22年度             | 利用料金制の有無<br>有 |
| 他自治体における業務実績 | 中野区もみじ山文化センター・野方区民ホール・なかの芸能小劇場、台東区立社会教育センター、墨田区すみだ生涯学習センター他共同事業体                        |  |        |                    |               |
| 指定管理業務の概要    | 施設の適正な維持管理・環境改善の実施。<br>ホール事業（落語・クラシック音楽・ダンス等）を年10回程度開催。また、親子や子どものワークショップ、成人講座を多数開催している。 |  |        |                    |               |

| 3 指定管理事業の実績・収支等 |          |          |          |          |         |           |           |           |           |
|-----------------|----------|----------|----------|----------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 延べ利用人数          |          | 指定管理料    |          | 使用料収入額   |         | 事業収支      |           |           |           |
|                 |          |          |          |          |         | 収入額       |           | 支出額       |           |
| 令和5年度           | 令和6年度    | 令和5年度    | 令和6年度    | 令和5年度    | 令和6年度   | 令和5年度     | 令和6年度     | 令和5年度     | 令和6年度     |
| 121,219人        | 107,022人 | 93,178千円 | 88,614千円 | 10,416千円 | 9,346千円 | 108,949千円 | 103,922千円 | 108,326千円 | 103,958千円 |
| 前年度比率           | 88.3%    | 前年度比率    | 95.1%    | 前年度比率    | 89.7%   | 前年度比率     | 95.4%     | 前年度比率     | 96.0%     |

※百円以下の金額は切り捨て  
※市への成果配分金は当該年度の事業収支の支出額に含む。（市の決算上は翌年度収入）

| 4 モニタリング事項                |                                                                                  |       |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 項目                        | 確認事項                                                                             | チェック欄 |
| 公平な使用の確保                  | ＜公平性の確保＞使用許可は適切に行われたか、不適切な利用制限はなかったか                                             | ✓     |
| 市民サービスの向上                 | ＜事業等運営＞新たなサービスの提供等、具体的なサービスの向上を図っているか                                            | ✓     |
|                           | ＜施設維持管理＞設備機能維持のための保守点検、清掃業務・光熱水費・備品管理等に遺漏はないか                                    | ✓     |
|                           | ＜情報管理＞個人情報保護及び情報公開について十分配慮し、必要な措置を講じているか                                         | ✓     |
|                           | ＜危機管理＞事故・災害等に対する綿密な危機管理体制が整っているか                                                 | ✓     |
|                           | ＜市民協働＞地域住民と協働した取り組みがなされているか                                                      | ✓     |
|                           | ＜ノーマライゼーション＞障害者や高齢者等に配慮した運営をしているか                                                | ✓     |
|                           | ＜モニタリング＞利用者の満足度を図る仕組みや事後評価がなされているか                                               | ✓     |
|                           |                                                                                  |       |
| 経費の節減など効率的な運営             | ＜収支の改善等＞利用者の増、経費の削減などの収支状況改善に向けた取り組みをしつつも、利用者にとって適正な運営をしているか                     | ✓     |
|                           | ＜経費の妥当性＞管理運営経費は、収支計画に基づき、適正に執行されているか                                             | ✓     |
|                           | ＜再委託業務＞再委託されている業務の範囲は適切か                                                         | ✓     |
|                           | ＜環境対策＞市の環境施策を理解し、省エネ省資源等、地球環境に配慮した管理運営がなされているか                                   | ✓     |
| 安定的な施設サービスの継続的な提供         | ＜サービスの信頼度＞施設管理手法及び維持管理体制が明確になっており、安全、安定的な施設管理ができているか                             | ✓     |
|                           | ＜職員の専門性、配置体制＞職員の指導育成などが適正にされており、施設の管理及び事業の運営を行うにあたって十分な能力を有し、事業内容に適した職員が配置されているか | ✓     |
|                           | ＜労働条件＞労働関係法令を遵守した勤務体制が確保されているか                                                   | ✓     |
|                           | ＜経営基盤＞指定管理者（母団体）は、公共サービス事業提供者にふさわしい理念・方針のもと、経営が安定しており、施設を継続的・安定的に管理できる能力を有しているか  | ✓     |
| 施設の特性によるサービス提供            | ＜生涯学習活動の充実＞学習活動の振興を図るために、関連情報の収集・提供、相談機会の提供を充実させているか                             | ✓     |
|                           | ＜サービスの向上と運営の効率化＞施設管理運営に対する利用者の満足度を調査・分析し、サービスの向上と運営の効率化を図っているか                   | ✓     |
|                           | ＜地域との連携の強化＞すべての市民を対象とした参加型事業を充実させるとともに、市内の公共施設・商業施設等との連携を強化しているか                 | ✓     |
|                           | ＜新たな利用者の開拓と利用率の向上＞ホールをはじめとする施設全体の利用率を増加させるとともに、登録団体数についても増加を図っているか               | ✓     |
| ※事業計画書等を参考に設定した各施設ごとの確認事項 |                                                                                  |       |

## 5 総評（現状と課題等を踏まえた施設所管部署による評価）

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、施設の利用状況がコロナ後の新たな日常として安定しつつある一年となった。利用者数は前年比でやや減少し、約10万7千人に留まったが、地域の文化・教育拠点として、市民の主体性や地域連携を促進する場としての発展を見据えた取り組みを推進した。

＜利用者数について＞

利用者数は対前年度14,197人減、施設利用率は対前年比4.0％減、施設利用料収入は対前年度比89.7％となった。周辺自治体の公共施設の休館が終了し、一時需要が終了したことが減要因の一つである。またパーテーションの利用不能により、集会学習室1単体の利用停止、また夏季冬季での空調老朽化による不具合が発生しており、会議室等の振り替えやキャンセルが発生した。

＜イベントについて＞

「東日本大震災・能登半島地震被災地復興チャリティイベントまろにえ祭り2024」を、昨年度同様コロナ禍以前の規模に戻して開催した。今年のテーマは「復興、そして伝承～生き抜く力と知恵を次世代へ～」とし、参加者数は過去最高の昨年を上回る5,165名を記録した。運営についても出展団体に協力をお願いする形態とするなど、連携がより深まる形とした。東京消防庁の起震車を招聘でき、同年1月に発生した能登地震、東日本大震災と同じ震度を参加者に体験していただくなど、震災に対する危機意識を啓発した。

ホール事業においては、全世代向けに良質な公演が12公演実施された。歌声カルテットによる観客参加型の「昭和歌謡コンサート」は、チケット先行で毎回数十～100枚程度の売り上げがあり、安定した支持を受けている。活動60周年の加藤登紀子を迎えた百万本のバラコンサート2025はチケットがほぼ完売となり、大盛況であった。

市民参加型事業の充実にも力を入れ、「まろにえサークルフェスタ」では前年を大きく上回る参加者を迎え、参加者自身が企画段階から積極的に関わる取り組みとしたことで、地域住民が主体的に楽しみながら交流を深める機会を提供できた。

＜各種教室・講座について＞

小中学生を対象として放課後の時間帯に色々なジャンルを体験する「放課後講座」を実施し、本年も市民講師にご参加いただいた。また市民協働（提案）型事業としては、みんなで協力して避難所をつくる体験型講座「みんなで避難所体験！防災サバイバル」、のんびり地域を散策し地域の良さを再発見する講座「東久留米でてくてくさんぽ」を実施、大人向け講座では毎年市内携帯電話ショップの協力のもと好評をいただいているスマホ教室、親子参加型では実際に屋上で星空を楽しむ「親子で冬の星空を楽しもう」など、幅広い層を対象とした講座を開催し、様々なジャンルの内容を楽しみ体験していただくことができた。

＜施設・設備の維持管理について＞

事業計画に基づいた施設の維持管理に加え、老朽化した設備等の不具合に対応し、適時に修繕するなど、適切に管理された。また市による工事修繕（エレベータ改修、LED誘導灯交換など）にも運営・施設管理面で協力した。

＜情報発信について＞

SNS強化による幅広い世代へ向けた情報発信の強化を目指し、Facebook、Instagram、Xを運用し、イベント情報を発信した。

## 6 次年度以降に向けた方向性

- ・民間事業者のノウハウを生かした企画の実施により、地域住民と連携したイベントや、著名なアーティストによる良質なホールイベントを実施していくことが望まれる。
- ・利用者懇談会や利用者アンケートの結果による、利用者ニーズを踏まえた施設の稼働率を高めるための工夫や、現利用者の満足度を高める取り組みが求められる。
- ・利用者増に向けて、現役世代や若年層など、新たな利用者層に生涯学習の魅力を伝えるため、利用者と団体、地域の連携を深める学びの場づくりや機会づくり、生涯学習活動の支援をさらに進めていく。
- ・施設の老朽化に伴う修繕の発生及び増加に対しては、市の担当者と十分に協議し、センターの運営に支障が出ないよう、日頃から適切な維持管理を行う。また、市施設整備プログラムや東久留米市施設保全計画等に対応して、市担当者と十分協議のうえ、施設の修繕計画策定及び的確な修繕の実施が必要となる。
- ・SNS、メディアにより東久留米市の生涯学習情報の新たな情報発信を行い、改善していくことで、広く認知度や好感度を高める必要がある。